

令和6年 第7回 武豊町教育委員会 会議録

開催日 令和6年7月11日(木)

場 所 武豊町役場 全員協議会室

教 育 長 榊原 寛二

教育長職務代理者 堤田 綾子

委 員 小藤 省吾

委 員 浅野俊太郎

委 員 鋤柄佐千子

出席職員の氏名

教 育 部 長 近藤 昭子

生涯学習スポーツ課長兼中央公民館長 横田 寛

歴史民俗資料館長 山下 恵広

町民会館事務長補佐 森田 明男

学校教育課課長補佐 小坂井絵美

学校教育指導主事 小田島 健

学 校 教 育 課 長 森田 光一

町民会館事務長 長谷川貴彦

生涯学習スポーツ課課長補佐 神谷 芳美

給食センター所長 青木 隆

学校教育指導主事 神谷 俊輔

：欠席者

1. 開会 午後1時30分

2. 開会宣言並びに第6回定例会 会議録の承認

(教育長) 出席委員4名を確認し、会議の成立及び第7回定例会の開会を宣言します。

(教育部長) 次に前回の会議録のご承認をお願いします。会議録につきましては事前にお渡ししておりますので、すでにご確認いただいていると思います。この会議録について、ご意見、ご質問等あればお願いします。

《意見なし》

(教育部長) 特にご意見等もないようですので、前回の会議録は承認とします。会議録への署名は、この会議が終わりましたら、担当がお願いに行きますので、よろしくお願いします。

(教育部長) それでは教育長報告をお願いします。

3. 教育長報告

6月13日(木) ・定例教育委員会 ・学校予算ヒアリング

6月14日(金) ・文教厚生委員会

6月15日(土) ・家庭教育推進協議会 田んぼの教育「田植え」

6月17日(月) ・学校訪問(緑丘小) 堤田委員、小藤委員

6月20日(木) ・表敬訪問 空手道 JOCジュニアオリンピックカップ

令和5年度第43回全国高等学校空手道選抜大会出場

男子団体組手3人制 優勝(令和6年3月開催)

名古屋たちばな高等学校 3年

(出場時の校名は愛知産業大学工業高等学校)

- 6月21日（金） ・ 衣浦小学校 第1回学校運営協議会
・ 学校運営研究会
- 6月22日（土） ・ 水辺クリーンアップ大作戦（富貴ヨットハーバー）
- 6月25日（火） ・ 校長教委管理職会
・ 武豊町生徒指導推進連絡協議会 「教育講演会」（富貴中）
- 6月27日（木） ・ 5町教育長会
- 6月28日（金） ・ 学校訪問（武豊小）浅野委員、鋤柄委員
- 6月29日（土） ・ 民踊講習会
- 7月 3日（水） ・ 県市町村教育委員会連合会総会
- 7月 4日（木） ・ 知教協幹事会
- 7月 5日（金） ・ 町図書館協議会
- 7月 9日（火） ・ オーストラリア派遣事業結団式
- 7月11日（木） ・ 定例教育委員会

（教育部長） 議事進行を教育長にお願いします。

4. 議 事

（教育長） 議案第21号「武豊町教育委員会委員の任命（案）」について、事務局より説明をお願いします。

議案第21号「武豊町教育委員会委員の任命（案）」について

（学校教育課 課長補佐） 資料の説明

9月定例会に上程する本同意案は、令和6年9月30日をもって任期満了となる2名の委員について、堤田綾子氏には引き続き、小藤省吾氏には後任として森田教夫氏を、令和6年10月1日から令和10年9月30日までの4年間、教育委員として任命同意のお願いをするものである。

（教育長） 今の件で、ご質問等はございますか。

（教育長） ご意見・ご質問がないということで、採決に入ります。議案第21号について、原案のとおり承認することに賛成の方は、挙手をお願いします。

<全員挙手>

（教育長） 本案を承認可決することといたします。

（教育長） 以上で議事を終了し、進行を教育部長にお願いします。

5. 報告事項

(教育部長) 続いて、報告事項に移ります。

(1) 第29回武豊町絵画展の事業報告について

(町民会館 事務長補佐) 資料1の説明

- ・令和6年5月 28 日(火)から6月22日(日)までゆめたろうプラザ響きホールとミーティングルームにて開催。
- ・全体出品者数66人 作品数145作品
- ・入場者数は 6 日間で延べ942名

(2) 学校の近況について

(指導主事) 資料について説明

- ・各校の様子 ・宿泊行事实施状況 ・海外派遣(オーストラリア)事業募集状況 等

(3) 当面する行事予定について

(指導主事) 資料2について説明(7月～10月)

6. その他

(1) 町民会館より

- ・各種事業について配付資料

(2) 学校教育課より

- ・町校長会・教育委員会合同県外視察について
- ・令和7年2月定例教育委員会の日程変更について

(教育部長) それでは、教育委員さんからお気づきの点があればお願いします。

(教育委員)

- ・学校の近況にて、宿泊行事が小学校のキャンプを除き無事に終了したという報告がありました。今年の中学校の修学旅行は、例年と同様、東京方面に行くことができ、生徒はよい思い出がたくさんできたようで良かったです。思い返すと、3年前、現在の中学3年生が小学校6年生だった時期は、まだコロナ禍で、修学旅行に行けるかどうか分からない状況でした。その年の中学校の修学旅行は、結局行先を変更して、東京ではなく伊勢方面へ行ったと記憶しています。それが3年経過し、東京、横浜、そして千葉のディズニーランドへ修学旅行で訪れていると聞くと、本当にコロナ禍前のような修学旅行に戻すことができたのだと実感しています。

修学旅行の内容も、クラスで一斉に遠足のように移動するのではなく、班で分かれて行きたい場所を選択し、自由に散策できるなど、先生方は事前の指導から本当にご苦労をされたのではないかと思います。一方で生徒にとっては主体的に計画、行動できることに満足でき、より楽しい修学旅行になったのではないかと思います。時代に合わせて、対応を考えていただいている先生方に感謝しております。

- ・ 令和7年度からの新制服導入に伴い、各中学校では校則改定について話し合いが進んでいるとお聞きしています。また部活動も休日の活動縮小に伴い、先生だけでなく生徒を交えた議論が進んでいるとも聞いています。今在籍している生徒にとっては、直接自分に関わらないことかもしれませんが、学校の未来と後輩のことを考えて、話し合いに真剣に取り組んでいるのは、とてもよいことだと思います。

校長先生と生徒が、意見交換する機会も設定されたとのことで、一人一人違う子どもたちの考え方をできる限り尊重して広く集め、学校全体として方向性を決めていくのは大変でしょうが、最大限子どもたちのためを思って具体策を検討していただいていること、さらに子どもたちが選択できる余地、裁量があるような決定を学校がされていることから、新しい時代が来ているとひしひしと感じています。

(教育委員)

- ・ 前回の定例教育委員会でもお話ししましたが、事故について、先日も知多市の方で女子中学生とみられる方が、鉄道事故でお亡くなりになったというニュースがありました。また、半田の方でも小学校の低学年児童が、車との接触事故にあったという報道もあり、これからの夏休み中に子どもたちが事故に合わないか心配をしています。車を運転する側が、最大限注意を払うのはもちろんですが、交差点での飛び出しや歩道から車道へのはみ出し等が無いように、歩行者の側が気を付けることで事故を防ぐこともできるかと思います。武豊町内には、大きな道路から一本路地へ入れば道幅が細くなっており、かつ車の通りは多いという場所もありますので、学校で子どもたちに向けて注意喚起をしていただければありがたいです。
- ・ 以前、他の委員からもお話があったことですが、子どもたちにもプライドがあるということについて、留意する必要があると思っています。学校訪問をした際、授業の中で先生が何気なく、分からないことがある子どもに手を挙げさせる場面を見かけます。子どもにとっては、授業の内容が分からない不安もあるでしょうが、一方で、人前で分からないことを公表することに、戸惑いを覚える子もいるのではないのでしょうか。「質問のある子はいいますか」、「何か質問はありますか」と言葉を置き換えて尋ねるなど、先生方にはご配慮いただければと思います。

(教育委員)

- ・ 7月に入り、もうすぐ夏休みを迎える時期となりました。4月から3か月が経ち、各学校では様々な問題・課題が顕在化してくる時期でもあるかと思っています。学校では、個人の問題だけでなく、いじめ・不登校など個人対グループ、場合によってはクラスや学年・学校全体に関わる問題も発生することでしょう。個人の問題については、比較的フォーカスしやすく、解決までの道のりを考えての対応もしやすいでしょうが、これが集団に関わる問題と個別の問題とが一緒になると、解決の道筋がなかなか見えなくなるということが起こる気がします。私の個人的な考えですが、何を優先するべきか考えたときに、全体の問題ということであれば、児童生徒の皆が落ち着いて安心して授業を受けられる環境を作ることが、最優先されるべきだという風に思います。これが違ってしまうと、学校に対する不信、不満、場合によっては先生に対する不信、不満に繋がっていくでしょう。ですから、まず優先すべきは、皆が安心して安全に授業が受けられる環境を作ることだと考えます。

- ・ 一方で、集団に関わる問題の中にある、個別の問題への対応についてはどうすればよいでしょうか。全体への対応のみに終始しては、「教育とはこうあらねばならない、こうあるべきだ」という、『あるべき』論をお話しされる方から、「学校は大勢のために一部の生徒を切り捨てるのか、教育を放棄するのか、責任は取らないのか」という意見が出てくるケースが十分想定されます。学校、保護者、教育委員会の関係者全てが、同じ方向を向いて問題解決に動くことができるのであれば、スムーズに事は運ぶでしょう。しかし、それぞれに立場が違いますので、なかなか方向が定まらない、場合によっては全く逆の意見になってしまうというのは、よくあることです。そしてそうすると、いつもまでたっても問題解決には繋がらなくなってしまいます。

学校が大切にしなければならないのは、それぞれの子どもの将来に対して最善の策をとっていくことであると、私は考えます。たとえ保護者と意見が違っていても、子どものことを中心に考えて、学校は学校としての責任を果たしていくべきであると思います。学校の先生は、子どもが卒業したらそれ以降関わることは基本ないはずで、保護者であっても、いつまでも子どもの面倒を見続けることはできません。だからこそ、それぞれの子が、自分の力でよい人生、よい未来を歩めるように、様々な立場の大人が子どもの将来を一番に考えて、自信をもって指導を行うという姿勢が、大切なのではないかと思います。

(教育委員)

- ・ 学校訪問で様々な授業を見させていただく中で、昔とは大きく変わったと感ずることがあります。その一つが、学校で先生が子どもたちに向けて伝えている内容です。とはいっても教科の学習内容ではなく、例えばしつけのように、昔は家庭で言われて子どもが身につけていたものなのではないかと思うことを、今は学校で子どもに向けて先生がお話をしているということに気づきました。私の経験ですが、父母だけでなく祖父母や、あるいは近所の人からも、いろいろな所で見られているからしっかりしなくてはならない、とか、逆に自分のやりたいことについていろいろな人から応援してもらっているなど、学校以外でも、大人から伝えられたことがたくさんあったと思います。その役割を、今では学校の先生が多く担うようになってきたのかなと感じました。
- ・ 以前にも、昔、大学で教えた学生が何人か教師として働いている話をしました。その方々に武豊町の教育委員会の話をすると、そこまでいろいろなことを教育委員会がやってくれる町は無い、あなたの町はとても恵まれていると、皆に言われます。様々な所で、武豊町のよいところを宣伝させてもらっています。

(教育部長) ありがとうございます。以上をもちまして定例教育委員会を閉じます。

(一同) ありがとうございました。

令和 年 月 日
署 名

.....

.....

.....

.....

.....

作成者 神谷俊輔